

國學院大學學術情報リポジトリ

〔談話室〕 ドイツ語圏のジェンダーニュートラルの表記

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學 公開日: 2025-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新倉, 真矢子, Niikura, Mayako メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001478

ドイツ語圏のジェンダーニュートラルの表記

新倉真矢子

ドイツ語の名詞には文法上3つの性がある。文法上の性と生物学的な性の一致は、「父親 (Vater)」が男性名詞、「母親 (Mutter)」が女性名詞、「物 (Ding)」が中性名詞などにみられるが、その数は僅少である。ほとんどの名詞は「ネクタイ (Krawatte)」が女性名詞、「スカート (Rock)」が男性名詞、「ワンピース (Kleid)」が中性名詞など、名詞と文法上の性とは恣意的な関係にあるように映る。名詞の性は語尾から推測できるものもあり、*-er*は職業・国籍・身分を表す男性形にみられる。男性形に接尾辞 *-ig* を付与すると女性形になる: *Japaner* (日本人)、*Japanerin* (日本人女性)。このような男性形と女性形の表記については、ドイツ語圏でジェンダーギャップやジェンダーニュートラルの観点から盛んに議論されてきたが、特にこの10年、新たな表記の模索が続けられている。

これまでドイツ語の職業・国籍・身分の名称は、男性形を総称としていた。旧東ドイツ (ドイツ民主共和国) では、男性形の職業名は女性にも適用され、女性の教授は *Frau Professor* (*Frau* = 英語の *Mrs.*) であり、旧西ドイツ (ドイツ連邦共和国) のように女性形 *Frau Professorin* にすることはなかった。一人でも男性が混じる集団には総称としての男性・複数形を使用することは旧東西ドイツにおいても同様であった。このような性差の表記の問題は、1970年代初めのアメリカのフェミニズム言語学からの影響や女性の社会進出とともに見直され、男性形の職業名に接尾辞 *-ig* を付けた女性形が辞書に多く加えられただけでなく、*Ärztin* (女医)・*Polizistin* (女性警察官)・*Bundestanzlerin* (女性の連邦首相) などは「*の女性形*」という説明ではなく、語の意味そのものが記載されるようになった。

男女二分法に基づく性差の不平等性や女性形の不透明さを解消するためにドイツ語圏では1980年代より様々な表記の

仕方が提示された。その結果として女性形と男性形が併記されるようになり、一時は女性・複数形の接尾辞 *innen* の *n* を大文字にした形を総称とすることもあった。StudentInnen (大学生) など。大文字の *I* 形は、ノンバイナリーを排除することにつながりかねないとの指摘から、役割認識にとられないジェンダーニュートラルの表記が模索された。表記の仕方は、記号を使う形と、記号を使わない統一形に分けられる。記号を使う形では、男性形と女性形の間の形態素境界に記号を入れた合体形が作られた。男女の形が残されると同時に、間にある記号がノンバイナリーを象徴し、ジェンダーギャップを埋める働きをするとされる。記号は主に4種類である: Student/in, Student:in, Student*in, Student.in。最近ではコロンに集約されつつある。コロンは記号の中でも見やすく、読む流れを妨げないとされる (Grid, M. 2023)。合体形の「記号+in」は、新たな語形を作り出しただけでなく、形態素境界の新たな発音も生み出した。記号を声門閉鎖音 [ʔ] にする *Student[ʔin]*、[ʔ] がない女性形 (Studentin) と区別する。ドイツ語では語や形態素が母音で始まる直前に声門閉鎖音 [ʔ] を入れることを原則とする ([ʔ]Eis, ver[ʔeist])。[ʔ] は語境界・形態素境界を示すものであるが、これまで接尾辞 *innen* には適用されなかった。[ʔin] の導入はドイツ語の形態音韻規則を再考させる可能性もある。

ジェンダーニュートラルの表記に記号を伴わない形としては、-person, -kraft への書き換えや、現在分詞を名詞化した形が用いられる: Lehrperson, Lehrkraft, Lehrende (教師)。ジェンダーの表示を回避することができたため、現在では広範囲に受け入れられている。他にも他の言語と同様に関係者全員を表す語に書き替えられることもある (Publikum (聴衆), Mitglie(d) (会員), Team (チーム))。

現在では連邦州や市のレベルでジェンダーニュートラルの表記が拘束力を持つところもあり、多くの大学や学術機関では指針が策定されている (Kothhof, H. 2020)。しかしながら保守的なメディアはジェンダーニュートラルへの理解はあるものの、読み手への配慮や紙面の統一性などから男性形の総称を使わないことに留まっている (Zylka, J. 2021)。以上のようにジェンダーニュートラルの表記は今なお揺れている。ことばの変化は社会情勢の影響を受けるため、ジェンダー問題だけでなく、ドイツの東西格差や南北問題を含めた今後の変化を見守っていききたい。

(ドイツ語／音声学、音韻論、ドイツ語教育)